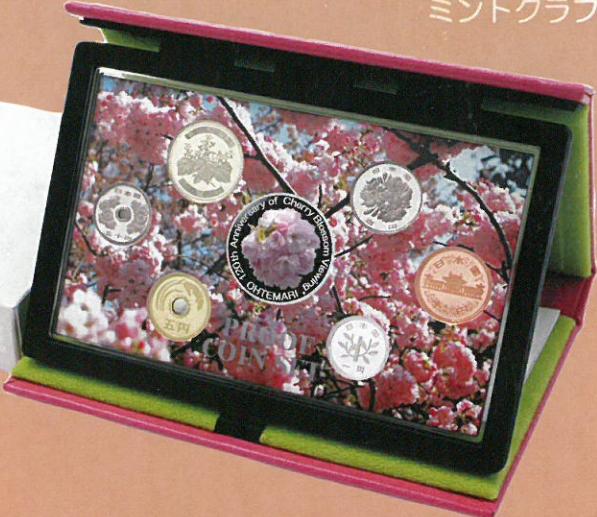
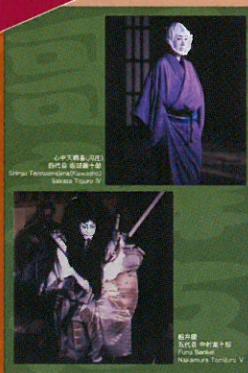
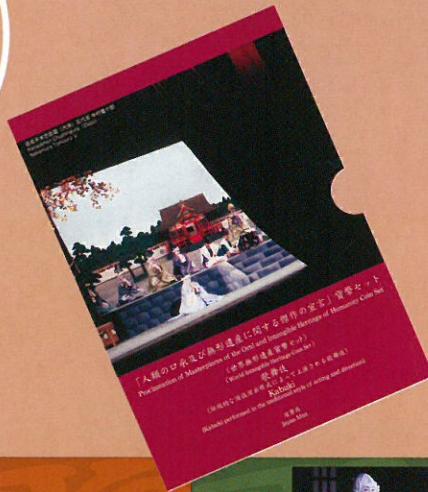


Mint Club

ミントクラブ



造幣局



もうすぐ造幣局の「桜の通り抜け」・ 広島支局の「花のまわりみち」が始まります

日本列島南から北に桜の季節がやってまいります。

このミントクラブが、お手許に届く頃には既に桜を堪能された方やこれから楽しむという方がおられることが多いと思います。

造幣局の桜の通り抜け・広島支局の花のまわりみちの桜の開花はもうすぐです。
是非お出かけいただきたいと思います。

会場周辺図



桜の通り抜け



造幣局(大阪)構内

花のまわりみち

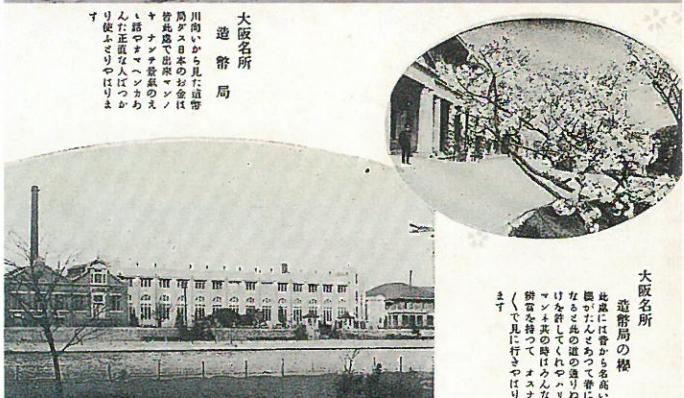
広島支局構内

大正・昭和初期の絵はがきにみる造幣局と桜の通り抜け

大正



昭和初期



会場内で、金属工芸品・貨幣セットを販売しています。

開催期間は、現在のところ未定ですが3月下旬までには造幣局ホームページ(<http://www.mint.go.jp>)でお知らせします。
また、ハローダイヤル(0570-00-888867時~23時)でもご案内いたします。

120th Anniversary of "Cherry Blossom Viewing" 2006 Proof Coin Set

- 桜の通り抜け百二十回記念 -

桜の通り抜け 2006プルーフ貨幣セット の通信販売について

造幣局の桜の通り抜けは、明治16年に始まって以来、大阪の風物詩として市民の皆さんに永く親しまれてまいりました。

今年で120回目を迎えることを記念して「桜の通り抜け2006プルーフ貨幣セット」を通信販売することとしました。

メダル(スターリングシルバー 銀925/1000銅75/1000)の表面には今年の花である「大手毬」をカラー印刷し、裏には明治16年銘の5円金貨をデザインし金蒸着仕上げにしました。

なお、このプルーフ貨幣セットは、通信販売の3万セットとは別に5千セット程度を桜の通り抜け会場において販売いたします。



平成十八年
今年の花
Blossom of the Year

大手毬
OHTEMARI

ベルリン・ワールド・マネーフェアに参加

会場風景



2月3日から5日までの3日間、ドイツのベルリンにおいてワールド・マネーフェアが開催されました。毎年スイスのバーゼルで開催されてきた歴史ある同フェアが、今年から会場をベルリンに移したもので。

ドイツは欧州で最もコイン収集が盛んとの前評判どおり、多くの熱心なコレクターが会場を訪れました。特に今回は開催を目前に控えたトリノ五輪やドイツ開催のサッカーワールドカップ、そして2008年北京五輪記念貨プログラムのスタートと話題に事欠かず、会場は大いに盛り上がっていました。

日本の造幣局もブース出展して貨幣セット及び金属工芸品の展示・販売を行い、2日目でほぼ完売となりました。また、来場者が各国造幣局のブースを回ってコインを集めるワールドパスポートにも参加し、1円玉を配布することを通じて多くのドイツ人コレクターと触れ合う機会を得ることができました。

さらに、各国造幣局が自社の新製品を発表するメディアフォーラムにおいて貨幣セットを紹介し、欧州を始め世界各国の貨幣ディーラーと商談を行いました。

海外における造幣局製品の紹介に大きな成果を上げた3日間でした。



販売風景



商談風景

「人類の口承及び無形遺産に関する傑作の宣言」歌舞伎 (伝統的な演技演出様式によって上演される歌舞伎) 貨幣セットの販売について

世界各地の「人類の口承及び無形遺産の傑作」は、隔年で宣言されています。

第1回としては2001年(平成13年)5月に「能楽」を含む19件が、第2回は2003年(平成15年)11月に「人形浄瑠璃文楽」を含む28件が宣言され、それぞれ記念としての貨幣セットを販売しました。

第3回としては2005年(平成17年)11月に「歌舞伎」を含む43件が宣言されましたので、この記念として貨幣セットを販売することとしました。



歌舞伎は演劇、舞踊、音楽の要素を併せ持った日本独自の伝統芸能です。

およそ400年前、出雲の阿国によって始められ、歌舞妓、若衆歌舞伎、野郎歌舞伎を経て現在の形式となり、すべての役は男性の俳優によって演じられ、女性役も女形と呼ばれる男性俳優が演じます。

演劇的な内容としては、歴史的事実から題材をとった時代物とその当時の庶民の生活を描写した世話物などに分けられます。

造幣局の桜が、毎年元気にきれいな花を咲かせるためには、人間の手入れを必要としています。

今回は、通り抜けの桜樹についてその全てを掌握されています妻鹿先生に、執筆いただきました。

桜樹コンサルタントとして



造幣局桜樹コンサルタント 妻鹿 加年雄

船場で生まれ育った私は当然のこと幼いころから造幣局の「通り抜け」は身近であった。中之島へは普段から歩いて遊びに行っていたから、年に一回とはいえ親に連れられて造幣局の通り抜けに行くのは特別なことでもなんでもなく、平野町の夜店や道修町の神農さんのお祭に行くのと変わりなかった。

中学にはいって引っ越してからは、大阪市歌を耳にしなくなると同時に通り抜けとも縁が切れた。そして何十年か経って花とみどりが仕事になると、通り抜けもたまには覗くようになった。

そのころ、千葉の園芸家がやって来て、「大阪で育つと桜はこんな樹形になるのか」と不思議そうな顔をした。ちょっと返事に困り、とりあえず「大都会の真ん中だからな。それに古い木が多いし」と答えておいたが、彼の言葉も無理もないで、枝が湾曲して垂れて老木の様相を示しているのである。花木の専門家でなかった彼はそれで納得したらしく、私のほうも関係のない造幣局のこととて一時の関心でしかなかったのである。

それが90年花博の年だったか次の年だったか、当時桜樹コンサルタントをしておられた加藤亮太郎氏が倒れられて、あとを私にとの意向が伝えられて驚いた。氏とは古い付き合いだが桜の話なんてしたことがない。何をどう見込んでいただいたのかわからないけれども、園芸界の先輩の名指しをいただいたのだし、仕事でも20年は桜を育てもし、枯らしもしてきているからまんざら素人ではないつもりである。

さて桜樹コンサルタントの委嘱をいただいて、大きい仕事は二つあるのを知った。

その一つは桜の維持管理のアドバイスである。これは私としては特になんと言ふこともない。「植物は自身でなんとか生きようとするものだ」「植物も人間同様に、どんな名

医が診ても死ぬときは死ぬんだ」という、長年の無数の植物を育て枯らしてきた経験からの思い込みがある。

それに何よりも、状況は私の出る幕ではなくなっていたのである。前任者の加藤氏のとき、すでに抜本的な手が打たれていたのである。

植わっている桜の株周りの土の入れ替えと歩道整備がそれである。

細かい技術面の話は省略するが、要するに年次計画で行われた改修工事がうまくいったのである。

垂れていた枝が立ち上がるわけはないが、新しく生じる枝は旺盛に生長しだして立ち枝になった。垂れている枝の伸長量が少ないのは当たり前だが、太いしっかりした枝を出してくる。数年前に某所の桜の集団植栽を見る機会があったとき、園内に入るなりそこの木が若いにも関わらず元気がないので驚いたことがあるが、植物の生長のよしさは一見でわかるもので、現在の通り抜けの桜は15年前とは全く樹形枝振りが違っている。もっとも古い垂れ枝も残っているから、事情を知らない人が見れば奇妙な樹形かもしれない。

つまり樹勢が回復してきているのは私のせいではなくて先代の功績である。私がしたことといえば幹洗いをやめたことぐらいである。造幣局の桜の幹洗いはいわば名物みたいになっていて新聞種にもなっていたが、無意味だと思ったのである。

大気汚染問題がやかましかったころ、私も多少は関係していて、植物の呼吸する穴である葉の気孔が煤煙などで黒く塞がれているのを観察したことがある。桜は幹にも同様な穴があるので洗うことの意義は理解できるが、呼吸の大部分は葉で行われるので葉を放っておいては効果は期待できず、さりとて葉を洗うのは不可能である。それに外觀だけだが葉が呼吸困難に陥っているらしい症状は見られない。現在でも大阪へ出たときと郊外の自宅にいるときでは顔の汚れ方が違うのははっきりしていて造幣局の桜が汚れているだろうことは容易に推測できるが、だからといって桜の健康を害しているとは思えないでのある。

桜樹コンサルタントのもう一つの大きい仕事は、桜の満開日の予測である。その予測に基づいて「通り抜け」の日程が決められる。予測が外れれば悲惨なのはいうまでもない。

造幣局の桜の見頃はおよそは4月中下旬ではあるが、自然現象のこととて何月何日と毎年決まっているわけではない。それを3月の頭には予測しようというのである。これは正直な話、無茶に近い。植物が生長を始める3月から4月にかけての気温の状態で、開花期は1週間ぐらいは簡単に動く。これが4月早々とかせめて3月末なら予測しやすいのだが、ぎりぎりで3月頭に予測せねばならない。というのはなにしろ狭い場所に大

勢の人が詰めかけるのでその警備の都合や、報道の関係がある。旅行社も通り抜けをコースに含むツアーを組むのでかなり早くから決めねばならない。気象庁の染井吉野の開花日のようにあとで訂正することはできないのである。

桜の開花期は主として春の気温によるが、3月の気温は間に合わないので2月以前しか頼れる気温はない。

私にとってありがたいことに、造幣局で「関山」という品種の満開日が昭和55年から記録されていた。当時以降の気象データを気象台から取り寄せてもらって「関山」の満開日と照らし合わせてみると、驚いたことに2月の毎日の最高気温の平均値と満開日に強い相関があったのである。もっともプラスマイナス1～2日の誤差は出るが、実用上は充分と見た。つまりその年の2月の温度がわかれれば「関山」の満開がいつになるかが簡単に予測できるのである。

その後毎年の実績を加えて補正しているが基本は現在も変わっておらず、その年の3月と4月の気温の長期予報も参考にしている。

私の役目はここまでで、イベントとしての「通り抜け」の日取りはその年の「今年の花」品種の特性や土・日曜を1週間の通り抜け期間のどこに持ってくるかなどが検討されて決定されている。

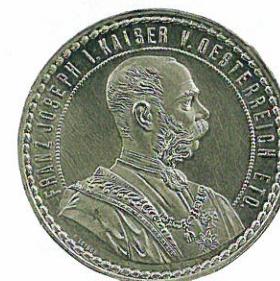
つまりこれも造幣局のデータがあったからこそで、もしそれがなかったらと思うと冷や汗ものである。

「通り抜け」の開催日が決まったからといって、実際にはその後の気温次第で咲くのだから、予測が外れても不思議はない。その後の気温なんて責任を持てないと開き直ってはいるが、内心は冷や冷やしている私にとっては、憂鬱な春なのである。ただおまけもあって、15年前は「通り抜け」はおよそ4月20日ごろとみてよかたのが、今は15日と早くなっていて、地球温暖化を実感している。

平成18年4月～6月の販売予定

販売区分	種類	販売価格	受付開始時期
通信販売	平成18年銘 敬老セット	2,000円	受付け開始時にDMでお知らせします。
	新しいテーマのブルーフセット	未定	
通年販売	平成18年銘 ジャパンセット	1,900円	造幣局構内ミントショップ、インターネットで販売中。電話でも受付中 (06-6351-2626)
	平成18年銘 記念日セット	2,000円	
	平成18年銘 ペーパーウェイト	3,900円	

造幣博物館所藏・外國章牌紹介 16



A | E



A. フランツ・ヨオゼフ一世御在位四十年記念射撃大會記念牌、表。1888年ウイイン造幣局製。錫と鉛の合金。直經36.14mm。重量16g。白銀色。壓寫打放しで着色二ス掛無し。

カシハ
一段覆輪の内側に棚の葉を連ねた飾環を圍らし、文字の内側に更に連珠を施してゐる。フランツ・ヨオゼフ一世の右向上半身像。金羊毛勳章をつけてゐる。肖像の下に「F LEISEK」の彫刻家署名がある。上縁部に「FRANZ JOSEPH IKAISER V.OESTERREICH ETO。(オオストリア皇帝フランツ・ヨオゼフ一世)」の文字。薄肉で硬い彫りであるが肖像のおさまりも良く文字、覆輪の意匠も良く美しい章牌である。

フランツ・ヨオゼフ一世（1830～1916）
（在立1848～1916）は數へ十九歳で即位し
六十八年に及ぶ長い在位を記録した皇帝
である。

B。同左、裏。表同様に覆輪、連珠を三重に
圍らしてゐる。中央にハプスブルク王朝
の雙頭の鷲の紋章、胸の處だけウイイン
市の紋章になつてゐる。

「KAISER JUBILÄUMS · U · V · N · O · LANDESSCHIESSEN 1848/88, WIENER SCHÜTZENVEREIN (1848年から1888年に至る皇帝の御在位記念を祝する州の射撃大会。ウィイン射撃協會)」の文字。州とはウィイン市の屬する州の意である。表同様圖案章は美しい。

此の錫と鉛の合金はウイイン造幣局が特に好んで用ゐるメダル用地金であるが、軟くて墨寫が樂で且つ變色しないのである。變色しないので着色仕上げもニス掛もしないのである。

(元工藝管理官 松岡隆範 記)

(本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。)

平成18年桜の通り抜け記念メダルの販売について

造幣局では、毎年当局で開催しております「桜の通り抜け」を記念したメダルを販売することとしました。表には子供が母親におんぶされて、桜の花に触れようとする様子をデザインし、裏には2006年の今年の花である「大手毬」をデザインしています。

特に銀メダルと銅メダルにデザインした「大手毬」の花には美しいカラー印刷を施しています。「大手毬」は多数の花が枝の先に密生して咲き、大きい手毬の状態となるところからこの名前が付けられています。

是非、お客様のコレクションの一つにお加えいただき、永くご愛好いただければ幸いです。
(図は、原寸大のイメージ図です。)

金メダル



素材：純金
直径：40mm
重量：約95g
仕上げ：ブルーフライク(裏面のみ)
ケース：人工スエード張りケース
その他：造幣局製、ホールマーク入り
販売価格：350,000円
(消費税、送料込み)
販売数量：650個(予定)
(申込多数の場合は、販売数を変更することがあります。)

銀メダル



素材：純銀
直径：55mm
重量：約135g
仕上げ：銀いぶし仕上げ
カラー印刷(裏面)
ケース：人工スエード張りケース
その他：造幣局製、ホールマーク入り
販売価格：19,000円(消費税、送料込み)
販売数量：4,000個(予定)
(申込多数の場合は、販売数を変更することがあります。)

銅メダル



素材：丹銅
直径：55mm
重量：約110g
仕上げ：ブロンズ仕上げ
カラー印刷(裏面)
ケース：人工スエード張りケース
その他：造幣局製入り
販売価格：5,000円(消費税、送料込み)
販売数量：5,000個(予定)

(申込多数の場合は、販売数を変更することがあります。)

申込要領

- ・申込数：申込み数の制限はありません。
- ・申込期限：平成18年4月7日(金)
(消印有効：郵便局の消印のあるもののみ有効とさせていただきます。)
- ・申込方法：付属の申込みはがきでお申込みください。
なお、お知り合いの方でメダルのお申込みを希望される方がおられましたら、次の申込先まで官製はがきでお申込みいただきますようお伝えいただければ幸いです。

(申込先)

はがき表
〒539-0053 大阪中央郵便局 造幣局 「桜の通り抜け記念メダル」係

はがき裏

- 1) メダルの種類(金・銀・銅)及び数量
- 2) 氏名(フリガナ)
- 3) 電話番号
- 4) 郵便番号
- 5) 住所(フリガナ)
- 6) お客様コード(造幣局に登録のある方のみご記入ください。)

・受付された方への連絡

4月中旬頃より造幣局発行の払込用紙を順次送付いたします。
お届けは、4月下旬以降の予定ですが、5月下旬となる場合があります。
・銀・銅メダルは通り抜け会場でも販売いたします。



JQA-QM9665
JQA-EM5105

発行所 独立行政法人 造幣局
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号
電話 06(6351)6928
造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>
編集兼発行 事業部販売事業課顧客サービス室
平成18年3月15日発行(第16号)

このミントクラブはエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています



Japan Mint